

最優秀賞  
(全国優秀賞)

## まずは米づくりを知ることから

湯沢市立雄勝小学校 五年 築瀬直人

一学期に社会科の学習で、米の消費量や農業をやる人が減ってきていることなど、日本の農業の問題点を知りました。資料集で、米の消費量がこの五十年間で約千三百万トンから約九百万トンまで減ったというグラフを見ました。そのそばに、消費者に農業を体験してもらおう取り組みをしている写真のついでに、それを見て、ぼくは前に父さんが言っていたことを思い出しました。

二年前に学校統合する前の小学校では、全校で田植えやいねかりの体験をしていました。そのとき使われていたのが、ぼくの家の田んぼだったのです。父さんは、みんなになえの植え方や米の育て方などを分かりやすく教えていました。みんな、父さんの話を真けん聞いていました。田んぼに入ると、

「わあ、ぬるぬるしてる。」

などと大きわぎしながら、顔はにこにこしていました。田植えが始まると、父さんやじいちゃん、JAの人たちが、田んぼの外側からなえを投げ、それを受け取って植えていきます。上手にキャッチして植えていく人もいれば、どろだらけになる人もいました。みんな、楽しみながら一生けん命植えている様子でした。その日、家に帰った後、父さんが、

「今日教えたことで、農家をつぐ人が増えてくれるといいなあ。」  
と言っていました。

暑い日でも、父さんやじいちゃんは、たくさんあせをかきながら農作業をずっとがんばっています。それを見ると、すごいなあという気持ちと、とても大変なんだなあという気持ちがわいてきます。大変でも農業をがんばっているのは、うれしいこともあるからじゃないかと考えたぼくは、父さんに、  
「何か喜びがあるから農業をやっているの。」  
と聞いてみました。すると父さんは、

「田んぼがあるから、やらないといけないんだ。米は日本人の源だからな、日本人が生きていくためのものなんだ。」  
と言いました。ぼくは、大変でもがんばっている父さん、日本人のためという思いをもち、強い責任感で続けている父さんをほこりに思いました。

家に田んぼがあるぼくでも、米づくりのことや問題点、農家の人の気持ちについて、知らないことがたくさんありました。多くの人たちに農業を体験してもらい、それをきっかけに米づくりのこと、農家の気持ちを分かってもらうことが米の消費量や、農業をやってみようとする人を増やすことにつながると思います。

新しい学校になってからは、ぼくの家の田んぼではないけれど、五年生みんなが田植え体験をしました。ぼくはこれから父さんたちを手伝ったり、学校で学習したりして、もっともつと米づくりのことを考えていきたいと思っています。